

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

高い知性、豊かな人間性、健やかな心身をもち、国際人として、将来、世界のさまざまな分野で活躍できる素質を育てる。

- (1) キャリア教育の充実を通じて子供たちが新しい時代、どのような社会でも生きていける力を醸成する。
- (2) 高い基礎学力と自学自習力を持った生徒の育成。
- (3) 学校行事・特別教育活動や部活動等とおして逞しい実行力、実践力を養う。
- (4) 国際理解教育と科学教育を専門学科として極めると同時に、両者のメリットを融合させ未来の世界をリードできる人材を育てる。

2 中期的目標

1. 新しい時代のキャリア教育

当校の今まで積み上げてきた資産を活かし、進路指導体制の改編（グローバルキャリア課新設）とその充実を通じ21世紀型キャリア構築へのサポートを実行する。
主に以下の対応に強固な体制を作る。

※ 目標：今後3か年を見据え、長期留学派遣年10名以上（5名から年間約2名増）。国内SGUや海外直接進学などが行う多面的な評価での入試に強い学校を作り上げ、当領域での実績を伸ばす。

- ア 国内大学のグローバル化、海外大学進学ニーズへの対応。
- イ A0入試や多面的評価入試（課題研究・長期・短期留学論文等）への対応。
- ウ グローバルキャリア観の醸成への対応。

2. 確かな学力への取組み

(1) 「魅力的な授業」「わかる授業」の実現と自学自習習慣の確立。

※ 目標：授業アンケート項目「生徒意識1」「生徒意識2」の肯定的回答の比率を毎年85%以上を長期的に維持する。
※ 家庭等での学習時間を3か年で、漸次、全国平均レベル（週12.5時間）までに伸長させる。

- ア 教員自らの学びを推進することで授業の質の向上をめざす。
- イ 授業アンケート結果に対して分析を行うことで、問題点を明確にして授業改善に取り組む。
- ウ 生徒の自学自習を支援し、自ら学ぶ力を深めるように助力をする。自習環境を整備し、自学自習の習慣の確立をめざす。

(2) 国際理解教育の充実

※ 目標：英検準1級取得者8名以上を達成する。

- ア 国際人としての広い視野と感性を育て、グローバルな社会で活躍できる人材の育成を行う。
- イ コミュニケーション能力を向上させ、留学や、海外の大学への進学を推奨する中で、世界を視野に入れた人材づくりを行う。
- ウ SGH指定校、ユネスコスクールの加盟校として、海外との交流を積極的に行い、体験活動を通して国際性に富む人材を育成する。
- エ TOEFL・TOEIC・英語検定などの資格試験に積極的に挑戦し、自ら語学力の向上を図る生徒を育てる。

(3) 科学教育の充実

※ 目標：科学系コンテストにおいて、年間に3件以上の入賞

- ア SSH事業及びその人材育成校の指定校として、その取組みを深め、世界で活躍できるグローバルな科学者を育成する。
- イ 五感で体得する理科授業をめざして、多くの実験実習を授業に取り入れ、その効果的な活用を行う教材を開発する。
- ウ 高大連携、大学訪問研修等を実施し、高校と大学の科学教育のスムーズな接続を行うとともに、生徒の学習意欲を高める。

3 進学保障

(1) 生徒一人ひとりの進路について、自ら目標を立て、可能性を追求し挑戦する態度を養い、実現できる生徒を育成する。

※ 目標：今後3か年で国公立大学合格者数30名以上、関関同立180名以上

- ア 進路情報の的確な提供と、きめ細やかな進路選択の指導を行う。
- イ 進学補習を計画的に実施し、進路を実現するための学力向上、家庭等での学習時間の伸長を支援する。

4 開かれた学校づくり

(1) 学校の特色ある教育活動について、幅広く情報発信をすると共に、地域と連携し、「地域の教育拠点」としての機能を果たす。

- ア 様々な情報メディアを活用し、きめ細やかな情報の発信を行う。
- イ 学校説明会等を充実させることで、入学者に対して、本校の教育活動に対しての理解を深める。
- ウ 地域の小中学生や住民に対しての科学講座・英語講座を実施し、地域の科学教育、国際教育の中核としての地位の確立をめざす。

5 活気と規律があり、生徒が安心して生活できる学校づくり

(1) 生徒一人ひとりを大切にするとともに、自主性の向上をめざす。

※ 遅刻総数今後3か年（現約2300名から300名以上減）を目標 最終目標：遅刻総数1500名以下：部活動への入部率85%以上。

- ア 個別に支援が必要な生徒への対応について、校内の組織を整備するとともに、きめ細やかな運用を実施する。
- イ 部活動を活性化し、参加者を増加させるとともに、その内容の充実を図る。また、学習と部活動を両立することのできる生徒を育てる。
- ウ 基本的な生活習慣を確立し、規律ある行動をとることのできる、社会性の豊かな生徒を育成する
- エ 生徒会活動を活性化し、学校行事やボランティアなどの体験的活動を充実させ、「生きる力」を育む。

6 教員の資質向上

(1) 学校力向上のための職員研修の充実

- ア 教職経験の少ない教員のスキルアップ
- イ 職員研修の実施

(2) 教員の働き方改革

- ア 時間外勤務の縮減
- イ 業務に応じた柔軟な勤務時間の割振り

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>○「泉北高校での充実感」については、生徒・保護者の満足度も高く、教員も高い意識で教育活動に当たっている。</p> <p>○「異文化理解や国際交流、共生の学習の機会」では、生徒・保護者の肯定率は高位維持。台湾スタディーツアーや語学研修等海外生徒との交流を充実していきたい。</p> <p>○「キャリア教育関係」については、保護者・教員の肯定率は高く、生徒の肯定率も79.4%（H29 79.0%）と高位維持できている。保護者向け及び生徒向けのキャリア講演会の実施や「進路のお話」の発行、進路資料室の整備により、生徒たちが進路情報を得やす</p>	<p>【平成30年7月23日実施（1回）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英検の目標設定は取得級でなくスコアで設定してもいい。 ・ 遅刻者数について、配慮が必要な生徒とない生徒とに分けて数値を出してほしい。 ・ ポートフォリオの管理方法について、教員との面談で活かす方法を考え、教員がアドバイスできるようなシステムを作らないと持続が難しい。 ・ NET3名の配置によりネイティブ教員と触れ合える機会が多いことは生徒にとって有益である。また「トビタテ！留学Japan」をさらに利用してほしい。 ・ 授業改善について、先進的な授業を視察できる機会を作ってほしい。 ・ SGH, SSH共に取組みが年々良くなっている。他の学校より取組みがすすんでいる。

府立泉北高等学校

<p>い環境が整った。</p> <p>○「部活動への参加」については、保護者・教員の肯定率は高く、生徒の肯定率も74.6% (H29 74.3%、H28 68.4%) と漸次上がっている。</p> <p>○「部活動と学習の両立」における生徒の肯定率が51.2%となり、50%の目標をクリアできた。「計画的な学習」の肯定率は29.1%とまだ低い。SMS (セルフマネジメントシート) や手帳を活用した指導が生徒の意識改善に繋がっている。</p>	<p>【平成30年11月28日実施 (2回)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 確かな学力への取組みとして、「卒業生を活用した学習活動のサポート」について取り組むとよい。 ・ 若松台中学校3年生が全員理科の実験を受けさせてもらっているが、実験の際に若松台中学校出身の先輩がサポートとして入る事はできないか。また、理科だけでなく英語の授業についても連携ができれば有り難い。 ・ ボランティア企画について非常に良い取組みである。生徒はボランティア企画に参加することで、入試での面接でも自信を持って発言する事が出来る。これが堺市のモデルケースになる可能性のある素晴らしい取組みである。 <p>【平成31年2月15日実施 (3回)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校教育自己診断結果教員提出率を100%にすること。 ・ 保護者のアンケート回収率が低い。メール等で事前に伝えるなど工夫を行うこと。 ・ 生徒に授業時間外学習を習慣づけてほしい ・ 授業時間外学習の方法について、指導や情報提供を行って頂きたい。 ・ 「いじめアンケート」を実施していることについて、生徒への周知を行う必要がある。
---	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 新しい時代のキャリア教育	<p>ア 国内大学のグローバル化、海外大学進学ニーズへの対応。</p> <p>イ A0入試や多面的評価入試(課題研究・長期・短期留学論文等)への対応。</p> <p>ウ グローバルキャリア観の醸成への対応。</p>	<p>ア・イ・ウ</p> <p>新たな時代の潮流を見据えた進路指導体制の拡充。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ グローバルキャリアと進路指導との結合組織へ発展。 ・ 課題研究への取組みと進路への導線づくりとして、生徒の3年間の取組みのポートフォリオを作成。 ・ SGH・SSHの統合的取組みにより、進路に結びつける。SGH・SSH枠での受験を推奨する。 ・ 海外修学旅行を実施する。また、海外の高校との国際交流を受け入れ、短期海外研修を実施する。 ・ 海外進学や留学の説明会を行い、留学や海外の大学への進学推奨を一層進める。 	<p>ア・イ・ウ ()内は29年度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長期留学派遣年7名以上。(3名) ・ 専門学科での活動を活かした入試制度を活用することで、国内SGUや海外直接進学を推進する。 	<p>ア・イ・ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長期留学派遣(NZ)2名(トビタテ!留学JAPAN) ・ 海外進学 H30年度3名(アメリカ、ケニア・ベルギー) ・ 交換留学 ドイツ3名(1年1名、2年2名) <p>(△)</p> <p>・ SGU合格者数 42名 (○)</p>
2 確かな学力への取組み	<p>ア・イ 授業改善</p> <p>ウ 自学自習の習慣確立。</p>	<p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 先進的な授業を視察・報告するとともに、テーマを定めた研究授業を実施する。 ・ 授業評価アンケート結果をもとにした研究会を実施する。 ・ 授業見学期間(6月、11月)の実施。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自習室の環境向上に努め、利用の推進を図る。 ・ 授業外学習時間の増加をめざす。 ・ 卒業生を活用した学習活動のサポート 	<p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒による授業アンケート 「生徒意識2」 85% (86.3%) 「生徒意識1」 85% (87.4%) 以上の達成。 ・ テーマを定めた研究授業を学期毎に実施。 ・ 授業見学を行った教員80%以上。(100%) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業外学習時間 週10時間以上。 ・ 学習活動のサポート内容。 	<p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業アンケート結果 「生徒意識2」授業内容に興味関心を持つことができた第1回83.8%、第2回81.3% 「生徒意識1」知識技能が身についた第1回85.1%、第2回83.3% <p>(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究授業 ICT活用した授業研究会を実施(10月) ・ 授業見学を行った教員81.5% <p>(○)</p> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭等での学習時間 23.3% ・ 学習活動のサポート回数 多言語学習支援14回 <p>(△)</p>
(2) 国際理解教育の充実	<p>ア・イ・ウ・エ グローバル人材の育成を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SGH事業の推進。 ・ 英語力の底上げ。 ・ 国際文化の把握と興味の維持。 	<p>ア・イ・ウ・エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SGH事業の推進。 ・ NETを効果的に活用し、英語によるプレゼンテーション能力及び会話を向上させる。 ・ 1・2年生全員にGTEC for STUDENTSの年1回の受験で生徒の英語力の分析を行い、科学的なアプローチで能力向上を図る。 ・ 学校設定科目「ACT」によるTOEFL iBTのスコアの向上を図る。 ・ 総合科学科において、「科学英語プレゼンテーション」を開講し、課題研究等の発表を英語で行う力を養う。 ・ 総合科学科のグローバルコース選択生は、研究成果を英語で発表できるようめざす。 ・ ユネスコスクール全国大会等に年1回以上参加し、交流を深める。 	<p>ア・イ・ウ・エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英検2級取得者60名以上を達成する。(50名) ・ 2年時GTEC平均点480点以上。(493.1点) ・ スピーチコンテスト(2学年)及びプレゼンテーションコンテスト(1学年)の実施。 ・ 総合科学科課題研究発表等において英語での口頭発表やポスター発表の実施状況。 ・ 総合科学科課題研究の発表概要を全グループが英語で行う。 ・ ユネスコスクール全国大会等に年1回以上参加。 	<p>ア・イ・ウ・エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 英検2級取得 124名(1年8名、2年78名、3年38名) (○) ・ 2年時GTEC平均点 (477.3点) (△) ・ レンテーションコンテスト 1年生10月に実施 (○) ・ スピーチコンテスト 2年11月に実施 (○) ・ 総合科学科課題研究発表 台湾彰化高級中学において英語で発表(12月) (○) ・ 総合科学科課題研究の発表概要(abstract) 全グループが実施 (○) ・ 海外校の受入れ ポルフェム高校(スウェーデン)7名 中壱高級中学校(台湾)66名 モスマン高校(オーストラリア)14名 海外研修への参加者 カナダ20名、オーストラリア30名、ボルネオ7名 (○) ・ ユネスコスクール全国大会(横浜)に参加(12月) (○)
(3) 科学教育の充実	<p>ア・イ・ウ・エ SSH事業の指定校として、人材の育成を行う。</p>	<p>ア・イ・ウ・エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題研究の成果と進学実績への結びつきを意識して、国立大学のAO入試や公募推薦での合格をめざす。 ・ 課題研究を深めて、科学系コンテストや学会での発表件数を増加させ、コンテストでの入賞をめざす。 ・ 理数理科での実験実習の実施率を維持するとともに、より効果的な新しい実験・実習に取り組む。 ・ 高大連携講座や大学訪問研修を発展的に継続し、講座の参加人数、訪問する研究室数も昨年並みか、それ以上とする。 ・ 海外高校生との合同研究や発表を行う。 	<p>ア・イ・ウ・エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立大学のAO・公募推薦の合格者5名以上。(4名) ・ コンテストや学会発表を5テーマ以上、3件以上の入賞。 ・ 実験の実施率は30~50%。 ・ 高大連携講座の参加者を延べ160人以上、大学訪問研修を29研究室以上。 ・ 海外との合同研究発表年1回以上。 	<p>ア・イ・ウ・エ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立大学のAO・公募推薦の合格者9名 (○) ・ コンテストや学会発表 SSH全国生徒研究発表会ポスター発表1テーマ 大阪府学生科学賞4テーマ発表 大阪サイエンスデイポスター発表3テーマ(10月実施) 口頭発表2テーマ(12月実施) 「理想のミルククラウンをめざして」銀賞受賞 (○) ・ 実験の実施率等について 全体30%(1年31%、2年34%、3年26%) (○) ・ 高大連携講座の参加者数 154名 (△) ・ 大学訪問研修の研究室数 29研究室 (○) ・ 海外との合同研究発表 SSH関係の合同発表を12月に実施 (○)
3 進学保障	<p>ア・イ 進路保障</p>	<p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高い目標を持ち、進路実現に向けて挑戦する態度を養う。 ・ 進路HRで進路選択に関わる情報提供(大学・予備校の講師による進学講話等)を行う。 ・ オープンキャンパスへの積極的な参加の奨励。 ・ 校内実施の外部模試受験による、学力状況の共有と学習目標設定への活用。(データ分析に基づいた科学的なアプローチによる学力向上を図る) ・ 長期休業中の希望講習の充実。 	<p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国立大学合格者2割増。(16名) 関関同立2割増。(127名) ・ オープンキャンパスへの参加者数。 ・ 外部模試(1年1回以上、2年2回、3年3回)の校内実施。 	<p>ア・イ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大学合格者数について 国立大学合格者 26名 (○) 関関同立大学合格者 124名 (△) ・ オープンキャンパスへの参加者数 2年全員277名 (○) ・ 外部模試 1年 1/19実施 2年 11/3実施、2/9実施予定 3年 6/5,6実施、11/3実施 (○)

府立泉北高等学校

4 開かれた学校作り	<p>ア 様々な情報メディアを活用し、情報の発信を行う。</p> <p>イ 学校説明会等を充実させる。</p> <p>ウ 地域の小中学生や住民に対しての科学講座・英語講座を実施する。</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校HPの役割を明確にして、在校生保護者の利便性を高め、SSH・SGH校間の連携を強化する。 月刊学校新聞およびメールマガジンを発行し、保護者への学校行事活動の周知を行う。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験授業やクラブ体験、ミニオープンスクールなど、学校説明会を充実させる。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 小中学生対象の科学教室・英語教室を定期的・継続的に実施する。また、夏期休暇中に自由研究の指導なども行う。 地域住民対象に、自然観察講座や実験講座を開催する。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> HPの更新80回以上(94回) 学校新聞を毎月発行、メールマガジン登録者数800名以上(847名)、配信回数70以上(76回) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校説明会等を2回実施。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 開催実績。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> HPの更新について 新規124回 (○) 月刊学校新聞「月泉(まんせん)」4～3月号を発行 メールマガジン71回情報発信、登録者数852名 (○) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校説明会 9/22に第1回を実施し、約420名の参加 11/17に第2回を実施し、約640名の参加 (○) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学生対象の「こども科学教室」を夏休みに実施し85名の参加 若松台中学校3年生全員への科学実験教室を開催 「泉北こども科学フェスティバル」を12月に実施し172名の参加 (○)
5 活気と規律があり、生徒が安心して生活できる学校づくり	<p>ア 校内の支援組織のきめ細やかな運用を実施。</p> <p>イ 部活動の参加者を増加と学習と部活動の両立を促進。</p> <p>ウ 基本的な生活習慣を確立し、社会性の豊かな生徒を育成する</p> <p>エ 学校行事やボランティアなどの体験的活動を充実させる。</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校生活支援カードを活用し、個別の支援を必要とする生徒への包括的な支援体制の充実。 相談室機能を充実させ、課題や悩みを抱える生徒の状況把握など、組織的に取り組む。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験入部の期間の設定や、中学生対象の体験入部など、部活動の活性化に向けた取り組みを実施。 部活動参加者の進路実現に向けて、学習意欲向上に向けた分析と対策を実施する。 <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻の実態と原因分析を行い、遅刻を減少させ、生活規律を向上させる。 <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事等に対する生徒の自主的な運営を支援し、充実した学校生活を支援する。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援会議の隔週開催を中心に情報共有を推進。 学校教育自己診断(生徒)における「相談体制」の肯定率60%以上。(45.7%) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 入部率85%以上。(87.4%) 学校教育自己診断(生徒)における「部活動と学習の両立」の肯定率を50%以上。(48.7%) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻者数年間2000人以下。(3272人) <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「生徒の生徒会行事参加」の肯定的回答80%以上。(74.6%) 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援会議について 隔週に開催し、生徒の状況報告等を行った。(○) 学校教育自己診断(生徒)における「相談体制」の肯定率 生徒59.1%、保護者69.0% ※生徒は学年進行とともに相談しやすい教員も増える傾向にある。(3年66.9%) (○) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 入部率 83.5%(1年92.8%、2年82.1%、3年75.6%) (△) 学校教育自己診断(生徒)における「部活動と学習の両立」の肯定率 51.2%(1年51.2%、2年42.9%、3年57.0%) (○) <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> 遅刻者数について 2662名(1年474名、2年889名、3年1299名) 昨年度の2割近く減少 (○) <p>エ</p> <ul style="list-style-type: none"> 「生徒の生徒会行事参加」の肯定的回答について 74.1%(1年74.1%、2年69.0%、3年75.1%) (△)
6 教員の資質向上	<p>ア 教職経験の少ない教員のスキルアップ</p> <p>イ 職員研修の実施</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職経験3年目までの教員を対象とした研修を実施し、若手教員の資質向上を図る。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員人権研修を計画的に実施し、教員の人権感覚の向上に努める。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 年6回以上実施。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員人権研修 年2回実施。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年目研修 教職経験3年目までの教員を対象に学校設定科目「グローバル活動」のボランティア企画を行い、生徒と若手教員がSDGsについて共に学ぶ機会となった。企画テーマとして、「こども食堂&学習教室」と「1日英語教師体験!全ての人に学びの機会を」の二つを採用し、参加生徒は達成感を得るとともに自身の課題研究の内容充実につながることが出来た。 また、企画と日程調整を自分たちで行う主体性重視の研修を実施。成果として、日程調整やプレゼン資料の作成及び当日のプレゼンテーションを経験することにより若手教員の成長に結びついた。(○) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 職員人権研修 6月に、「生徒達への指導法～高校生を取り巻く環境の変化～」をテーマに生徒理解と生徒とのコミュニケーション法についての研修を実施し、12月に、『てんかん』への理解を深める」をテーマに「てんかん」の基礎知識及び発作への対応の研修を実施した。(○)
(2) 働き方改革	<p>ア 時間外勤務の縮減</p> <p>イ 業務に応じた柔軟な勤務時間の割振り</p>	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ノークラブデー、一斉退庁日を活用した時間外勤務の縮減 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 電話当番等における時差出勤の積極的活用 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 1ヵ月の時間外勤務60時間以内の教員数 8割以上。 <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 時差出勤活用教員数 8割以上。 	<p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務の状況(4～12月) 1ヵ月時間外勤務60時間以内の教員数 57人/65人(87.7%) (○) <p>イ</p> <ul style="list-style-type: none"> 時差出勤活用教員数 4人/65人(6.2%) (△)